

6月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比D I 値の動き

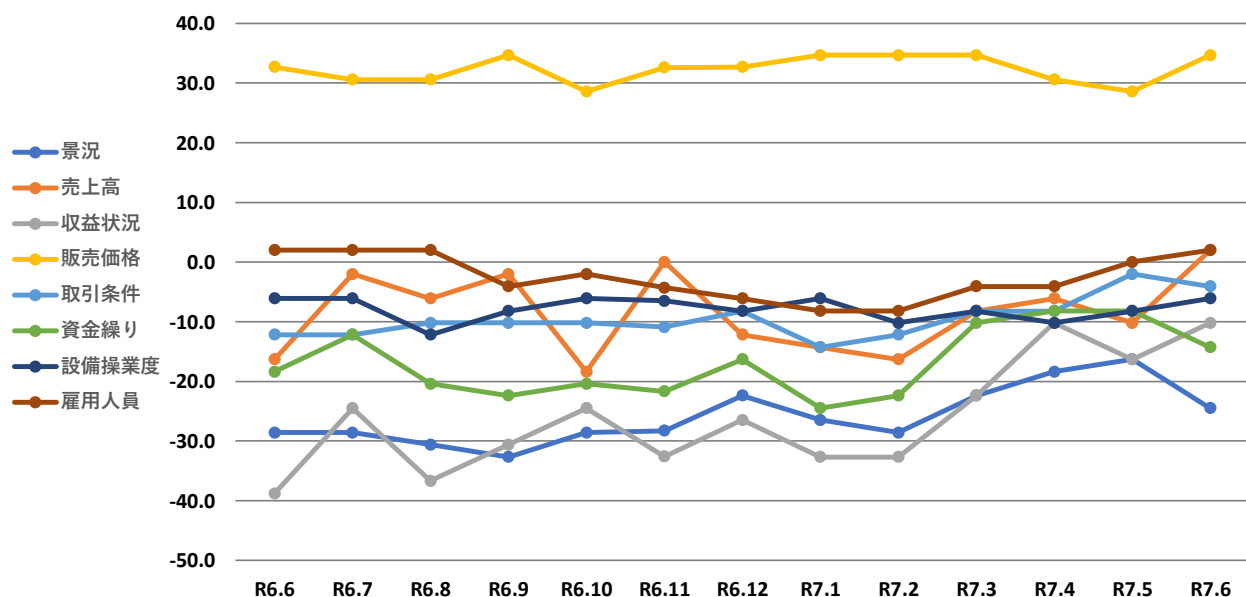
令和7年6月のD I 値は8指標中、「売上高」「収益状況」「販売価格」「設備操業度」「雇用人員」が上昇、「景況」「取引条件」「資金繰り」が下落となった。

2. 県内中小企業の景気の現状

令和7年6月の徳島県内中小企業の景況は、物価・資材費・人件費の高騰や人手不足が依然として経営を圧迫しており、先行きの不透明感が強い。建設業では工事発注の減少と施工単価の上昇により、実質的な受注量が減少。現場では猛暑への対応も課題となっている。製造業では、縫製業で賃上による利益圧迫が苦しい中、一部で特定技能の縫製業の資格取得を計画中である。木材関連では建築確認の遅れや丸太不足、職人不足が重なり、減産や先行き不安が広がっている。印刷業ではペーパーレス化や人材難の影響で受注が減少し、経営は引き続き厳しい。食料品製造業では、塩や梱包資材などの高騰により、メーカー・農家ともに収益が悪化。生コンクリート業では出荷量が増加しているが、資材高や工事減少で全体としては厳しい状況が続く。小売業では、ショッピングセンターで客単価は微増したものの、業績にばらつきが見られる。自動車整備業では販売が好調で一部回復の兆しがあるが、収益構造の転換が課題。旅行業では個人旅行が戻りつつあるが、団体旅行はバス代高騰や猛暑の影響が懸念される。今年は梅雨明けが早く、畳小売業ではカビの心配が軽減されたが、猛暑による作業負荷が増している。運輸業では燃料価格の高止まりや荷動きの減少が続き、補助金が支給されているものの、経営環境の抜本的改善には至っていない。

	R6.6	R6.7	R6.8	R6.9	R6.10	R6.11	R6.12	R7.1	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	前月比
景況	-28.6	-28.6	-30.6	-32.7	-28.6	-28.3	-22.4	-26.5	-28.6	-22.4	-18.4	-16.3	-24.5	-8.2
売上高	-16.3	-2.0	-6.1	-2.0	-18.4	0.0	-12.2	-14.3	-16.3	-8.2	-6.1	-10.2	2.0	12.2
収益状況	-38.8	-24.5	-36.7	-30.6	-24.5	-32.6	-26.5	-32.7	-32.7	-22.4	-10.2	-16.3	-10.2	6.1
販売価格	32.7	30.6	30.6	34.7	28.6	32.6	32.7	34.7	34.7	34.7	30.6	28.6	34.7	6.1
取引条件	-12.2	-12.2	-10.2	-10.2	-10.2	-10.9	-8.2	-14.3	-12.2	-8.2	-8.2	-2.0	-4.1	-2.1
資金繰り	-18.4	-12.2	-20.4	-22.4	-20.4	-21.7	-16.3	-24.5	-22.4	-10.2	-8.2	-8.2	-14.3	-6.1
設備操業度	-6.1	-6.1	-12.2	-8.2	-6.1	-6.5	-8.2	-6.1	-10.2	-8.2	-10.2	-8.2	-6.1	2.1
雇用人員	2.0	2.0	2.0	-4.1	-2.0	-4.3	-6.1	-8.2	-8.2	-4.1	-4.1	0.0	2.0	2.0

DI値の推移



徳島県中小企業団体中央会

徳島県 中央会情報連絡員報告総括表 (令和7年6月)

情報連絡員数	49	名	回答者数	49	名	回答率	100.0	%
--------	----	---	------	----	---	-----	-------	---

業界の景気動向(前年同月比)

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員			業界の景況		
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化
製造業	食料品	0	4	0	0	4	0	0	4	0	0	3	1	0	3	1	0	3	1	0	4	0	0	4	0	0	3	1
	繊維工業	0	2	0	0	2	0	1	1	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	1	1	0	2	0
	木材・木製品	0	1	5	1	4	1	1	5	0	0	6	0	0	3	3	0	2	4	0	3	3	0	5	1	0	2	4
	紙・紙加工品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	印刷	0	1	1	0	2	0	1	1	0	0	1	1	0	0	2	0	2	0	0	1	1	0	2	0	0	0	2
	化学・ゴム	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
	窯業・土石製品	2	0	0	0	2	0	2	0	0	0	2	0	1	0	1	1	0	1	1	1	0	0	2	0	1	0	1
	鉄鋼・金属	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	1	1	0	2	0
	一般機器	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
	電気機器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	輸送機器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		2	12	6	1	18	1	5	15	0	0	18	2	1	12	7	1	13	6	1	15	4	0	17	3	1	11	8
非製造業	卸売業	1	2	0	0	3	0	2	1	0	0	3	0	1	2	0	0	3	0				0	3	0	0	3	0
	小売業	2	4	1	0	6	1	3	3	1	0	5	2	0	5	2	0	7	0				0	6	1	0	5	2
	商店街	1	1	2	2	2	0	2	2	0	0	4	0	0	2	2	0	3	1				0	4	0	0	3	1
	サービス業	2	4	0				2	4	0	0	6	0	1	5	0	0	5	1				2	4	0	0	5	1
	建設業	2	3	1				3	3	0	0	6	0	2	4	0	0	6	0				3	3	0	1	4	1
	運輸業	1	2	0				1	2	0	1	2	0	1	2	0	0	3	0				0	3	0	0	2	1
	その他	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	0	0	0	0
小計		9	16	4	2	11	1	13	15	1	1	26	2	5	20	4	0	27	2				5	23	1	1	22	6
合計		11	28	10	3	29	2	18	30	1	1	44	4	6	32	11	1	40	8	1	15	4	5	40	4	2	33	14

〔景況関連の報告〕

【製造業】

<食 料 品>

1. 味 噌・みその生産量は、前月比91.9%と落ち込んだものの、前年累計比100.6%で前年並み確保。出荷量は、前月比95.0%、前年同月比98.5%、前年累計比100.3%とほぼ前年並であるがやや低調に推移している。主食用米の市場価格が高騰を続けるなか、製造原価の高騰をカバーするため販売単価や原料構成の見直しを図っている。御膳みそのGI登録を契機に消費者の認知度は高まっており、差別化やブランド力の強化に向けPR活動の強化に努めている。
2. 漬 物・資材・人件費の高騰で収益状況は悪化している。特に、メーカーと原料農家共に塩などの原料や梱包資材などの高騰が収益悪化の原因となっている。

<繊維・同製品>

3. 縫 製・引き続き、仕入他諸経費の増大が激しいにもかかわらず、売値に反映できない状態が継続中。ロスや生産性の向上、工程削減を試みたところで、追いつかない状況である。他方、国外に目を向けると、販売価格は日本よりも高値である。また、最低賃金の影響で、最低賃金層及びその上の階層にも賃金改定を行ったが、賃金引上による利益圧迫が顕著であり、厳しい状況である。雇用維持と人材の質がマッチしていない中で賃上は、企業としては苦しいなか、今後を見据えたと避けて通れないとは理解しているが、納得いくものではない。引き続き、現実的なコスト削減をするしかない。人材確保手段として、特定技能の縫製業の資格を得る計画中である。

<木材・木製品>

4. 製 材・4月の建築基準法改正の影響で建築確認が遅れ、5月からさらに6月は木造建築の仕事が減り、木材需要が低迷。職人不足や暑さも影響している様子。製材品の動きが悪く、単価は上がらない。減産する製材所も少なくない。7月以降も木材需給は先行き不透明。時期的なこともあるが、山での出材が減り、全国的にも生産量が落ちている。資源が成熟し丸太が太くなる一方で、特に3メートルの柱用丸太が減ってきた。
5. 木 材・3月の駆け込みで4月・5月は乗り切れたが、6月は非常に悪かった。7月以降もあまり期待できないが。
6. 木 材・今年4月1日からの構造計算込みの建築確認の許可が市町村からなかなか下りない状況が続いています。これについては新築及び10m²を超える増築部分、改築でも300m²以上の木造建築でも必要となりました。

<印 刷>

7. 印 刷・6月は総会など定期的な行事があるものの、前年とは異なる形式や仕様の変化も見られ、売上は減少傾向にある。毎年のことではありますが、7月に入ると一気に閑散とした状態である。私たちはこうした状況下で、イベントや行事、催し物を追いかけながら、個々のお客様から新しい需要を引き出す工夫と実行が求められる。こうした厳しい環境だからこそ、将来を見据え、意識的に新しいことにチャレンジする余裕を持ち、印刷につながる営業活動に前向きに取り組む姿勢を持ち続けたい。
8. 印 刷・6月下旬に四国四県の印刷工業組合の組合員が集まり協議会を開き色々と情報交換を行った。殆どの組合員がペーパーレス化による仕事の減少、それに伴う他社との競争の激化など厳しい状況が続いているとの事だった。また働き方改革による労務管理の面でも色々と問題があり改善するために取り組んでいる組合員が多かったが、一番頭を悩ませている問題は、求人広告を出しても効果が見えず人材が確保できないという事だった。

<窯業・土石製品>

9. 生 コ ン・6月の出荷量は昨年同月と比べて約30%増加。昨年度の異常な出荷量の激減に比べると、今年度はここまで幾分安定した出荷量ではある。しかし大型工事の予定もない中、これまでの官工事の発注状況を見ていると年度末頃は出荷が減少し、出荷量が落ち込む可能性がある。
10. 生 コ ン・6月の出荷量は、対前年同月比10%増であった。単月では10%増加となっているが、4月～6月の通期においては4%の減少にて、状況は変わらず、新規大型公共工事の減少及び資材費の高騰及び現場監督不足により予算執行が進まず先行き不透明となっている。収益については、価格引上げにも関わらず、資材高騰及び大幅な出荷数量の減少という結果により、経営環境は依然として厳しい。

<鉄鋼・金属>

11. 鉄 鋼・業況感には、大きな変化もなく概ね横ばいで推移している。現況においては設備操業度に回復傾向が見られるものの、まだまだ先行き不透明感が拭えないところである。また、依然として必要な人材の確保が課題となっている。
12. ス テ ン レ ス・景況感の前月と比べ大きな変動は感じられないが、当社の受注残高としては増加となっている。ただし、米国の通商政策等による日米間の交渉の難航から今後の輸出関連製品においては不透明感が払拭できない状況である。また、国内においては、物価上昇の継続が消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響が懸念されるため、当社顧客メーカーの設備投資意欲への刺激減少が心配される。

<一般機器>

13. 機 械 金 属・一部には景況感の持ち直しの動きも見られるものの、引き続き、原材料費、労務費、エネルギーコストの高騰に加え、経済・外交政策の変化や国際情勢の緊迫化など、諸々の不安定要因により、先行きが見通せない不透明な経営環境に大きな変化は見られない。また、従業員の確保や生産性向上、人材育成などが、依然として、経営上抱える課題として見受けられる。

【非製造業】

<卸 売 業>

14. 食 糧 卸・備蓄米と輸入米の市場への供給により、平均小売価格は若干値下げ傾向にあると報道されているが、新米(令和7年産)への影響は不透明。高温障害と水不足も心配される。

<小 売 業>

15. ショッピングセンター・組合店舗で昨年比を上回ったのは2店舗のみで他の店は上回りはしないものの横ばいを維持しているようだ。物価上昇の影響も多少なりとも受けていると思われる。
16. ショッピングセンター・売上は101.1%、客数は99.9%で客単価は101.2%と微増です。食品は103.9%堅調に推移しています。衣料は99.8%・住居関連は95.6%若干落ちています。昨年より土曜日が1日少ないのが一因となっています。
17. 電 気 機 器・猛暑によりエアコンの販売が順調。なかでも省エネタイプのエアコンの販売比率が高くなっている。

18. 豊 市・梅雨明けが早かったせいか、月末近くになって、物流が活発になってきた。全体に雨量も少なかったので、カビの心配も今年は少ないようだ。新築納品は、決算のところがあり、多かった。個人の表替は梅雨が明けたらという依頼が多いので、7月は熱中症に注意しながら仕事をしたい。

<商店街>

19. 徳 島 市・梅雨明けが早く一気に夏の暑さになったのでTシャツ類は売れるがその他のアイテムが厳しい。相変わらず、どちらも人通りが少ないのが問題。
20. 徳 島 市・前月より外国人の訪問が減ったようです。居酒屋は相変わらずにぎわっています。
21. 鳴 門 市・6月15日に100円商店街が開催されました。雨でしたが、たくさんの人出でした。ありがとうございました。撫養小の商店街見学や、組合員の出張授業など、恒例の事業が行われました。

<サービス業>

22. 自動車整備業・6月度の自動車販売状況について、登録車においては新車・中古車登録台数ともに前年度を上回り、新車登録台数は前年比9.1%増、中古車登録台数は前年比20.3%増と大きく上回った。半面、軽自動車については新車登録台数が前年比6.7%減、中古車販売はほぼ変わらず、トータルでは前年比4.0%増という結果。新車の需要は新型車を中心に底堅く推移しており、また各ブランドが積極的に新型車や特別仕様車の発売、販売キャンペーンの展開を実施していることから、今後の新車販売は前年実績超えを継続する可能性が高い。収益状況の目安とみている継続検査の台数は、登録車が対前年同月比10.7%増、軽自動車は7.6%増という結果。壊れない車と高騰するコストで、自動車整備業界の収益構造は変化している。整備以外の事業で売上をアップさせることが必要だ。
23. 旅行 業・国内観光は個人旅行については活況を取戻し始めているかにも見えるが、団体旅行については、バス代の高騰等により、旅行に行きにくくなっています。これから酷暑の影響で高齢者など旅行控えが心配されます。徳島では、コロナ禍以前、企業団体旅行があったところも、まだ、景気等の理由で旅行を控える企業様が多くあります。
24. 土木建築業・設計人数は同じ(少数減)。人員増加(企業努力)による設備追加により電子機器増。PC本体の更新については、官側の動向を見ながら随時更新。更新時期に合わせて更新予定。7～9月に向けて器材等準備。設計人員は2～3名減。配置人員は数名増。8月から女性技術者(資料作成業務)を採用。
25. ビル管理・前年同期と比べ大きな変化はありません。官公庁関係の入札物件が終わり、人件費及び物件費の上昇分が反映された関係で売上高が増加傾向にありますが、そのペースを上回る勢いで原材料費の上昇が続いており、今後の懸念材料になる可能性があるため推移を注意深く見守る必要があります。また、発注者等との価格改定交渉を進めていますが、仕様変更の要請等もあり改定交渉は順調に進んでいない状況があります。宿泊業に関して、インバウンド観光客や、学会開催等により高い稼働率となりましたが、徳島香港線が休止との報道もあり、今後その影響が懸念されるため、人員調整を柔軟に対応するべく検討しているところです。

<建設業>

26. 鉄骨・鉄筋工事業・仕事量は不安定で大型物件が少なく、ゼネコンも中小物件を激安で受注しているようで、安価な物件には近づけない。現場雑務や金物加工のような小物件も1〜2か月、見積もりも少ない。今後、システム建築や中層建築の木造化が進むと鉄工所の仕事がさらに縮小する懸念がある。仕事を始めると納期変更の対応に追われている。今年の夏も猛暑、万全の熱中症対策を徹底していきたい。
27. 建設業・発注工事が減少している。発注者別では、件数では国、独立行政法人、徳島県が減少、請負額では徳島県が減少している。建設資材価格の高騰や人件費の上昇があるため、実質の公共事業は減少している。民間建築工事も施工単価の上昇により、減少傾向にある。
28. 板金工事業・工事件数は少ないままの状態が続いています。事業所ごとの受注量の差がでています。この状況がしばらく続きそうな状況です。
29. 電気工事業・徳島県内 令和7年6月分の戸建住宅新築件数160件(前年比116.8%)

<運輸業>

30. 貨物運送業・6月ローカルネットの取引高、全国では対前年101.5%、中四国92.3%、当組合112%。WebKITの取引高、全国では対前年83%、当組合81%。取引高トータルでは対前年同月比105%、利益は116%となりました。平均運賃が前年比104.5%と運賃の上昇傾向が続いています。当組合取引は輸入原料や燃料関係で堅調に推移しプラスとなっているが運送事業の状況は長距離を中心に荷動きが落ちているという声をよく聞き、売上の減少、物価高やドライバー不足を背景に運賃指数は上昇を続けているようです。
31. 貨物運送業・国際情勢が緊迫状態にあり燃料代に響いてくるだろうと不安の声をよく耳にする。与党政府は一定の金額より上がらないようにするそうだが、野党の提出したガソリン減税に期待をしていただけに残念でならない。良くも悪くも変化なくして結果は得られない。しばらくは現状維持という忍耐が続く。
32. 貨物運送業・例年6月は荷動きが落ち着くが、今期はさらに荷動きが悪くなっている。中東情勢への不安等から燃料は高止まり、政府は10円の定額支給に加えて、追加の補助金を出してくれているが、事業者は厳しい状況が続いている。